Vol.05

Take Free ¥0

赤 城 山 観 光 情 報 紙

A K A G I F T

AUTUMN / WINTER 2019

特集 麓の人々が紡いできた山

地蔵岳

赤城山環境ガイドボランティアと巡る

地蔵岳登山

大人も子どものとりこになっちゃう
秋冬こそ感動がいっぱい

ぐんま昆虫の森

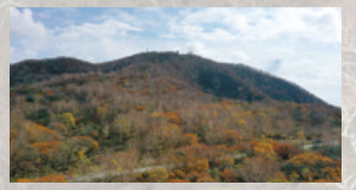
あかぎこ女塾
週4日開く、
パンがとびきりおいしい山小屋食堂。

デンさんのてんでいい話。
赤城山には４つの沼がある!?

週末、東京から2時間の里山環境リゾート 赤 城 山

地蔵岳
JIZO DAKE

麓の人々が紡いできた山



標高1674m。百名山赤城山のシンボル的な山の一つ、地蔵岳。非常に眺望が良く、季節を問わずハイカー達に人気。その頂と周辺には、かつての信仰の名残が、そこかしこに見受けられる奥深い歴史的背景を有する山でもある。今回の特集では、地蔵岳の魅力を余すところなく、お伝えしていきたい。

先祖の霊が帰る場所、地蔵岳。

遙か太古の時代から、山は信仰の対象であり、山体そのものがご神体と崇められていた。9世紀頃までには山は仏教徒の修行場となり、赤城山麓には粕川に宇通廃寺などの山寺があり、このあたり一帯ではそこを拠点として僧侶たちが山林修行をしていたという。小沼から見上げる神庫山(現在の地蔵岳)の中腹には赤城神社が鎮座していたが、806年(大同元年)に大沼湖畔に遷宮されたといわれている。

中世になると神仏習合が進み、赤城山では大沼が千手観音、小沼・小地蔵岳が虚空蔵菩薩、地蔵岳が地蔵菩薩を本地仏とすると定められ、「赤城三所明神」が成立した。このことは、南北朝時代に編纂された関東など東国を中心とした全国の神社縁起を集めた説話集『神道集』に記載されている。

地蔵岳山頂には江戸幕末あたりまでお堂が建てられ、銅製地蔵菩薩像が祀られていたようである。お地蔵様の足元にあった釜の中には、ご先祖の霊が封じ込められており、盆月の1日(旧暦7月1日)に釜の上から地蔵を下ろして釜を上向けにすると、地獄の釜の蓋が開き亡者が家に帰れると信じられていた。そして盆が終わるとまた、地蔵岳に戻っていったともいわれた。

地蔵菩薩像の供養を行っていたのは、大洞赤城神社別当を兼ね、赤城山の祭祀に深く関わっていた壽延寺(現在は六供町)であった。

一年に一度、先祖に会いに行ける山。

現在の桐生市黒保根町を中心とした赤城山東麓では、毎年5月8日(旧暦4月8日)赤城山の山開きの際、過去一年間に死者のあった家では必ず地蔵岳に登って亡くなった人に会いに行くという風習があった。このことは、昭和21年発刊、柳田國男著『先祖の話』の中の「六七　卯月八日」に記されている。さらに、死者の名を呼ぶと、亡き人の顔が空中に現れたといい、賽の河原と呼ばれる山頂の露地で石積みをして供養したそうだ。そのほかにも赤城山には山中他界を連想させる血の池、ガキボッタ、三途の川、六道辻、地獄谷などの地名が現在も残っている。地蔵岳の山頂には、中世につくられたであろう板碑や五輪塔が散在している。これは赤城山における地蔵信仰が中世後期にまで遡ることを意味している。

東福寺鰐口(前橋市指定重要文化財)
小沼の湖底から発見され、地蔵岳山頂にあった地蔵堂にかけてあったなど赤城山信仰の遺品と諸説言われている青銅製の鰐口。赤城山信仰の遺品。直径14.5センチ、厚さは縁で4センチ、中央で6.7センチ。

東福寺
前橋市三河町1-9-18
TEL.027-224-6887

壽延寺境内にある釜蓋地蔵尊。伝承を基に東武鉄道が赤城山ロープウェイ運行に合わせ建立したもので、ロープウェイ廃止とともにかつて祭祀をおこなっていた壽延寺に移設された。今でも地蔵岳の方向を向いている。

壽延寺
前橋市六供町239
TEL.027-221-6346

小沼・小地蔵岳の本地仏として祀られていた虚空蔵菩薩像。群馬県指定重要文化財。

地蔵岳から見た小地蔵岳(中央)。虚空蔵菩薩像は、ここにお堂があり、祀られていた。

赤堀道元の姫の遺品といわれる帯。

黒保根出身の関口文治郎作といわれる中国「二十四孝」の物語などを題材にした彫刻欄間がある。桐生市指定重要文化財。

湧丸山　醫光寺(医光寺)
桐生市黒保根町上田沢326
TEL.0277-96-2300

小地蔵岳、小沼の本地仏を訪ねて桐生市黒保根町へ。

小沼東に位置する小地蔵岳にはお堂があり、そこを代々管理していたのが桐生市黒保根町にある醫光寺といわれている。前述のとおり小沼・小地蔵岳は虚空蔵菩薩が本地仏であり、虚空蔵菩薩像が祀られていた小地蔵岳にもまたお堂があったそうだ。現在は、お堂は跡形もなく、虚空蔵菩薩像も醫光寺に安置されている。

住職の空井さんが、お堂の奥から出してきてくれた。神々しいとはまさにこのことかと驚くほど上品で柔和な表情が印象的だ。まず目につくのは、台座の正面部分にはくっきりとした「上州赤城山」の文字。背一面を見ると虚空蔵菩薩が永禄元年の鋳造で、小沼神の本地仏であることが分かる銘文が。赤城山信仰を物語る貴重な遺品について空井さん曰く「明治はじめの頃に小地蔵岳から醫光寺に納められたようです。比較的小さな菩薩様だからでしょうか、大戦による金属回収などにあうこともなく、現在まで大切に守られてきました。」とのこと。

他にも醫光寺には小沼の伝説にまつわる帯も残っている。その伝説とは、佐波郡赤堀村(現在の伊勢崎市)に赤堀道元という有力者がいた。子供に恵まれなかった道元は赤城大明神に祈り、娘を授かった。その娘が16歳になった年、赤城山にお供を連れて登り、お供の者が目を離した隙に小沼に入水してしまった。道元は必死に探すが見つからず、ついには小沼の淵を切って水を抜くと言い出した。すると、龍に姿を変えた娘が現れ、実は自分は、小沼の主であったと伝え、去っていくというものだ。醫光寺が小沼信仰を行っていたことを物語る貴重な遺品である。「小沼は粕川の源流にあたり、農耕の豊凶を大きく左右する用水の大切な水源であり、だからこそこのような伝説が生まれたのではないかという説もあります。竜神の住む聖地として崇められ、この辺り赤城東麓では、16歳の娘は小沼に近づいてはいけないと言われて育った年配の方々もいらっしゃるんですよ」と話してくれた。事とは直接的な因果はないが、神への奉納品であったのだろうか、小沼湖畔からは、10世紀から15世紀頃に製作された銅鏡も多数発見されている。

実り人プロフィール
#17 湧丸山　醫光寺　住職
空井 秀雄さん
Syuyu Utsui
800年から1000年近い歴史があり、黒保根および勢多郡では珍しい高野山信仰のお寺である醫光寺の第57代住職。

地蔵岳の魅力は語り尽くせない

当時のロープウェイ乗車券

実り人プロフィール
#18 #19 食事処「湖山」店主
塩原 昭夫さん　Akio Shiobara
美佐子さん　Misako Shiobara

20代の頃に東武鉄道に就職し、赤城登山鉄道と赤城山ロープウエイの運転士をしていました。休日になると、東京からたくさんの観光客が訪れてね。夏の地蔵岳頂上は一面花畑で綺麗だったし、冬はスキー客でにぎわいました。特に山頂からの眺めは最高ですよ。眼下に雲海が出現した時は息をのむほどですし、雲海から顔を出した富士山は、目の錯覚なのでしょうけど、ひときわ大きく見えるんですよ。北方向に連なる谷川連峰、至仏山、燧ケ岳も幻想的。どこを見渡しても絵になるのが地蔵岳の魅力ですね。山頂駅に勤務していた頃は何度もこのような光景に出会えました。写真に残した当時の思い出は、今も店内に飾っているんですよ。

塩原 昭夫さん提供

Close Up

眺望抜群の地蔵岳に赤城山ロープウェイがあった！

東武鉄道の赤城山観光開発により、1950年代から赤城登山鉄道と並んで赤城山ロープウェイも運行されていました。下駅を赤城平駅、地蔵岳山頂を上駅の地蔵岳駅とし、全長586メートルを結びました。平成に入り、1998年に利用者の減少とともに廃止されましたが、ロープウェイ跡は現在でも確認することができます。

参考資料：柳田國男全集／山伏の地方史(みやま文庫)／壽延寺縁起

＼ 赤城山環境ガイドボランティアと巡る ／

地蔵岳登山

どの山でも、ガイド付きで登れば新たな発見があるものだが、地蔵岳は360度の眺望、自然、歴史、そのどの面から見てもふさわしい奥行きがあるので、ぜひ環境ガイドボランティアの皆さんと一緒に登ってみてほしい。

赤城山環境ガイドボランティア

赤城山の自然・歴史・文化や環境保護活動について、推奨コースを歩きながら解説してくれます。その知識は、まさに歩く図鑑や教科書。一緒に巡れば、季節ごとの知らなかった赤城山の魅力を新発見・再発見できます。

問い合わせ先：NPO法人 赤城自然塾 TEL 027-212-2611

Course

今回は

八丁峠登山口からスタート

地蔵岳登山ルートはいくつかあるが、今回は最短ルートで山頂まで行ける、八丁峠登山口からスタート。スタート地点には、山頂までの目安30分とある。登りはじめは少しキツく感じるかもしれないが、スタートからしばらくは木の階段が整備されている。行き帰り、1時間もあれば楽に戻ってこられる。

＼あの文学者も／

幸田露伴も訪れた温泉「地獄谷温泉」

地蔵岳の南西面にあるシロゾロといわれる灰白色の砂礫の場所では、昭和初期まで地獄谷温泉と言われる温泉があった。地蔵岳や小沼周辺の地下ではマグマの熱が残っていて、温泉水がわき出る可能性もあるそう。

Flowers

草花との出合い

ぷっくりとかわいいミズナラの実を発見。初秋の終わり頃であったが、行く先々で木の実、草花に出合えた。
登りはじめは急勾配に感じるが、慣れてくると、足場もよく非常に登りやすい。登りはじめてわずかな時間で、この景色。もう小沼が見えてきた。

ミズナラの実(どんぐり)

ワレモコウ

オヤマリンドウ

ツリガネニンジン

アキノキリンソウ

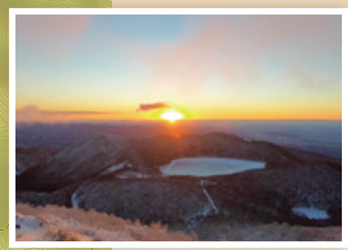
コツムシソウ

ウメバチソウ

ヤコラッキョウ

この穴はなーんだ？

笹の葉に、小さな丸がひとつ、ふたつ、みっつ・・・5つ。これは、何の穴だろうか？誰か、動物がかじった？通称「マシンガンホール」と呼ばれ、笹の葉がまるまっている状態の時に、蛾の仲間(ホソハマキモドキ等)が卵管を刺して、卵を産み付けた跡と言われている。また蛾の幼虫の食痕だという説もある。



2019年の初日の出。地蔵岳山頂からは、その時々の美しい光景に出合える。

コースタイムは無雪期の一般ハイカーを対象。無理のない登山計画をお立てください。

Mountaintop trivia

地蔵岳山頂は見所いっぱい！

Close Up 01 選ばれし山

地図作成の基本となる一等三角点は、本点と補点に分かれているが、本点は約40km間隔で置かれているもので、群馬県内では地蔵岳山頂のみ置かれている。一等三角点研究会が風格のある山容、優れた眺望、知名度、さらに概ね標高1,000m以上で登り甲斐などを基準に選出した「一等三角点百名山」に名を連ねている。補点は、約25km間隔で一等三角本点の見通しの悪い箇所をカバーするために置かれ、群馬県内には８カ所ある。

Close Up 02 日本初

1953年、雨量自動観測装置が日本で最初に設置されたのが、ここ地蔵岳。実は、長七郎山が最初の候補にあがっていたようだが、現地調査の結果で、地蔵岳に設置されることに。これが後のアメダスとして引き継がれたそう。
その後、1976年に国土交通省の雨量観測用レーダーが世界で初めて設置。観測範囲は半径200kmだが、実際には半径120kmの範囲の雨量を５分間隔で計測している。

Close Up 03 日本史の縮図

地蔵岳山頂に並ぶ首のないお地蔵様。
廃仏毀釈の影響が、山頂にまで及んだことを物語っている。

Close Up 04 秘密の花園

電波塔が林立する地蔵岳山頂。その姿は初めて見るものには異様な光景に映るのかもしれない。電波塔の周りには当然のことながら立ち入り禁止の柵があり、中は可憐な草花のオアシスに。普段人が立ち入らない場所だからこそ、安心して花を咲かせることができる。外側からそっと観察しよう。

眺望、紅葉、雪の登山道、初日の出など、地蔵岳の美しさを余すところなく動画で体感してみよう！▶

赤城山に山伏がいた！？

山岳信仰の対象である赤城山では山伏の活動も盛んだったと言われています。たとえば、山伏が大胡城主・牧野康成に仕え、赤城山麓の江木村の開発を行ったという資料も残っているんですよ。修験道は本山派と当山派で分かれているのですが、わたしは本山派の本山である京都の聖護院で山伏になるための修行を2年間してきました。京都には結袈裟をまとって法螺貝を吹き鳴らす山伏の姿が日常的に見られるのですが、赤城山はもちろん、山に囲まれた群馬でも、明治まではたくさん山伏がいたようです。皆さんにそのことを知ってほしくて、昨年の夏に赤城山のカフェの関口さんから声をかけていただき、法話会をはじめて開きました。赤城山にみる山岳信仰や山伏の修行内容についてお話したりしました。参加してくれた皆さんが興味深く聞いてくださってうれしかったですね。これから山伏が再び脚光を浴びるような機会を増やしていけたらと思っています。

実り人プロフィール

#20 大福院住職見習い
小野関 隆香さん
Ryuka Onozeki

平成29年に聖護院修験学寮生として入寮し、平成31年３月学僧満了。21歳の群馬県内では最年少の女性山伏として、柱源護摩・十八道など15の保有免許を持つ。

大人も子どももとりこになっちゃう 秋冬こそ感動がいっぱい、ぐんま昆虫の森

寒くて身も縮まるような秋冬の里山で昆虫観察なんて全然できないんじゃない？そんなふうに決めつけていたらもったいない！凝り固まった常識を見事にひっくり返してくれるのが、今回ご紹介する桐生市の「ぐんま昆虫の森」。その場所その場所で、健気に、懸命に輝く昆虫たちの命のきらめきを目撃したら、心が温かくなるほど感動せずにはいられない。さあ、昆虫の世界へ。

室内体験

奇跡体験の連続。チョウ飼育室へ行ってみよう。

ぐんま昆虫の森には、「昆虫ふれあい温室」という、1年中暖かな気候を保ってオオゴマダラや、ツマベニチョウなど日本列島でも南方に生息するチョウを見られる温室がある。色鮮やかな花から花へヒラリと優雅に飛んで、まるで人を怖がらない様子に感激する人も多い。でもそれはチョウの一生からしたらほんの一部でしかない。チョウに魅入られたなら、ぜひ、成虫になる前の命のきらめきに出会いに「チョウ飼育室」へ足を運んでほしいと思う。チョウ飼育室は、さながら病院の「新生児室」といった趣だ。「新生児室」にいるのは、タマゴから幼虫、サナギ、そして今羽化したばかりのチョウがいる。生まれたてのチョウは、すぐには飛ばない。いや飛べない。今にもヒラヒラと飛んで逃げていきそうなのに、ほとんど動かずに止まっている状態のチョウを、間近で目にすること自体がものすごく奇跡で、貴重な経験ができるのがチョウ飼育室見学ツアーの醍醐味だ。

昆虫専門員の金杉さんは「羽を伸ばしきっても、まだ乾いていないんです。朝はまだ飛べなくても夕方には飛べることも。タイミングがあえば、チョウが初めて飛ぶ瞬間やサナギから脱皮する瞬間などに出会えますよ」と言う。実際、わずか数十分の取材中に「リュウキュウアサギマダラ」と呼ばれるチョウの幼虫がサナギへと変化していく姿も運良く目にすることもできた。

「ここにいる幼虫は、手で触れられるんですよ。優しくなでてみてください。派手な色をしていたり、トゲのようなものが出ていたり、様々ですが、それぞれに感触が違います」と言う。最初はおそるおそる、慣れてくれば愛着すらわいてきて、確かにしっかりとした特徴を指先に感じる。いわゆる芋虫と言われるようなチョウの幼虫をなでるなんて、大人は思わず「悲鳴」をあげるかもしれない。でも、そう決めつけないでほしいと金杉さんは願う。「怖い。気持ち悪い。そういう先入観を植え付けなければ、幼い子どもたちは意外とそんなに怖がらないんですよ」と言う。さあ、「赤ちゃん」にそっと触って、昆虫と自分をつなぐ新しい扉を開いてみよう。

チョウ飼育室見学ツアー
土日祝日開催
13:15〜13:45
定員：10名
要申し込み
参加費用：無料
（入館料は別途必要）

実り人プロフィール
#21 昆虫専門員 **金杉 隆雄**さん
Takao Kanasugi

開館当初から専門員として勤務。7年前から蝶飼育室の担当に。2018年からはじまったチョウ飼育室見学ツアーでは、子どもたちから放たれる鋭い質問にも真摯に答える“昆虫先生！”蚊の仲間の新種を発見したことも。

屋外体験

春をただ待つのではない。冬を越す昆虫たちの知恵とパワーに驚く。

里山歩きガイドツアー
土・日・祝日開催
（平日不定期）
定員：15名
要申し込み
参加費用：無料
（入館料は別途必要）

空っ風が吹く冬。寒くなったら、群馬の里山から忽然と虫の姿が見えなくなったように感じるかもしれないが、とんでもない。虫たちはたしかにあちらこちらで身を寄せ合ったり、葉の裏でじっと耐え、春が訪れるのを待っていることを里山歩き担当の浅野勲さんから教わる。しかし、暖かい季節ならば普通に歩いているだけで様々な昆虫たちを目にすることができるが、寒い季節にはちょっとしたコツがいる。

たとえば、テントウムシ。「構造物がある南西で冬越しをします」と案内してくれたのは、園路から少しそれた電柱。2つの巣箱がくくりつけられている。中をあけて見て、びっくり。たくさんのテントウムシが身を寄せ合う姿が。その数100はいるだろうか。「こげ茶色と白色の巣箱2種類置いているんですが、不思議なことに毎年交互に位置を変えてもこげ茶色の巣箱にたくさんいるんですよ」と浅野さんは言う。それぞれに色や模様は違えど、その種類はすべて「ナミテントウ」と呼ばれるテントウムシなんだそう。

その隣には、オオカマキリとハラビロカマキリの大きなタマゴがミカンの木にしっかりと産み付けられている。なんだか宝箱を探しているような気持ちになってくる。敵から身を守るための擬態は、目の肥えた人でなければなかなか見つけることができない。もしくは先入観のない子どもなら見つけられるかもしれない。

次に案内して見せてくれたのは、クスノキの裏で擬態した「アオスジアゲハ」のサナギ。驚くことに、葉の裏に似せた葉脈までもがそっくり。大げさではないのだが、「ほら、ここだよ」と指をさされても分からないほど。擬態の精度は神業と言うしかない。

冬を越すのはサナギだけではない。成虫のまま冬越しをするチョウもいる。無事に春を迎えられるとは限らないそうだが、「まだ暖かい秋の間に「ここ！」と場所（葉の裏など）を決めるんです。チョウにも爪があって、その爪でしっかりとつかまっているんですよ」。健気な昆虫たちの姿を目の当たりにすると、応援せずにはいられないような気持ちになる。春を待ってオスとメスが出会い、タマゴを産む。すべての使命を果たすのは、その時だ。

実り人プロフィール
#22 里山ツアーガイド **浅野 勲**さん
Isao Asano

定年退職後、ぐんま昆虫の森の里山歩きガイドの担当になって11年目を迎えた。ガイドになるネタを探して、図鑑を手に日々園内を歩く。

「かやぶき民家」へいらっしゃい。

明治時代の養蚕農家を移築したかやぶき民家。建物に入れるだけでなく、実際に活用されているのが、ぐんま昆虫の森ならではの魅力。秋は干し柿をつるすのどかな風景が見られたり、夏には蚕を育てている様子を間近に観察できたり…。そのほか一年を通して、様々な昔の里山の暮らしを体験できるイベントが盛りだくさん。かやぶき民家の庭では、竹馬、羽子板、メンコ遊び、コマ回しなどで遊べる。遊び方が分からない！という人は、スタッフさんがいるので、レクチャーしてもらおう。

群馬県立ぐんま昆虫の森
詳しくはコチラ！
開園時間／9:30〜16:30
（4月〜10月は17:00まで、
入園は閉園時間の30分前まで）
休園日／月曜日（祝日の場合は翌日）
桐生市新里町鶴ヶ谷460-1
TEL.0277-74-6441
HP http://www.giw.pref.gunma.jp/

あかぎ乙女塾
Lesson5

週4日開く、パンがとびきりおいしい山小屋食堂。

2019年秋、赤城南麓に一軒の可愛らしい山小屋風の食堂がオープンした。その名も「山のフモトのパン食堂Cou屋」。オーナーの鈴木さんご夫婦は、丸沼高原で15年程ペンションを営んでいたが、立地も良く、イメージが膨らむ物件に出会い、赤城を新天地として選んだ。無垢材の温かみに包まれた店内は陽射しがたっぷりと入り、さらに薪ストーブもあって思わずまどろんでしまう心地良さ。「Cou屋のくうは、おいしいものを食べて(くう)、皆様を笑顔にする空間(くう)という意味を込めています」と話す奥様の章子さん。食事メニューは、月替わりで楽しめるランチプレートとピザプレートなど。洗練されていながらも、家庭的でどこかホッとする味わいの料理をぐっと引き立てるのは、ご主人の智康さんが焼く自家製パンだ。取材時のランチプレートのメインは、塊ごと煮込んだという、フォークで切れるほど柔らかい地元産の豚肉と旬の野菜がたっぷり入ったボルシチ風シチュー。バターが薄く塗ってあるライ麦パンに絡めていただくとより一層幸せな気持ちに包まれた。「地元で採れた旬のもの、また人とのつながりで得た食材を大切にしていきたい」と、顔をほころばせながら語ってくれた。

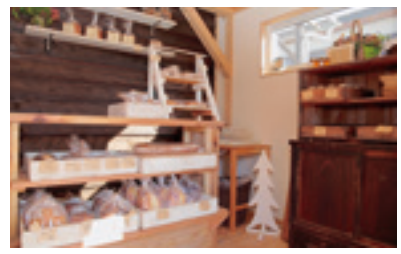
ランチプレート
月替わり

ご主人が朝3時から仕込む自家製酵母パンとピザ。もっちりとした生地はなめらかで美味。

ピザプレートのピザ
(前菜・スープ付)
単品もあり

山のフモトのパン食堂
Cou屋
前橋市富士見町皆沢315-73
TEL.027-289-0849
営業日　金・土・日・月曜
11:00〜17:00
https://cou-ya.com/

\詳しくはコチラ!/



バゲットやカンパーニュをはじめとする10種類のハード系食事パンや食パン、そして季節のタルトとジャム。すべて手作りなのがうれしい。

「結婚前、フレンチのビストロで共に働いていた時代からずっと一緒で、もう25年」とはにかむ鈴木さんご夫婦。

赤城山環境ガイドボランティアがそっと教える

デンさんのてんでいい話。

Episode #5

赤城山には４つの沼がある!?

〜『血の池』それは地蔵岳の山頂から見ることができる〜

赤城山の造山活動は、およそ40〜50万年前から始まり、噴火当初の山体は富士山のような成層火山で、標高は2,500mほどだったと言われています。20万年前にあった噴火で山頂部が山体崩壊を起こして標高が下がりましたが、14万年前の噴火で黒檜山が出現。

その後、約4.5万年前の大噴火によって山頂部が吹き飛んで巨大なカルデラが出現し、凹地全体に水が溜まって古大沼となりました。

引き続いて、カルデラの中央には小沼火山や地蔵岳の溶岩ドームが現れ、古大沼はカルデラの東部分のみに縮小しました。小沼火山の噴火口が小沼です。小沼の東側縁が長七郎山で、西側縁が朝香嶺ですが、その西で小噴火が起こり「血の池」が出現しました。古大沼は、その後の水位低下によって大沼と覚満淵に分離しました。

地蔵岳山頂から小沼方面を写したもので『血の池』の水面がよくみえます。降雨量の多い時に見ることができ、秋が深まり、降雨量が少なくなると湖面が涸れていきます。

血の池って？

こんな伝説が残っています。昔赤城の原に老夫婦と一人の娘が住んでいた。娘はたいそう綺麗だったので言い寄る男が沢山いたが、娘はそれを嫌がり「この空き地に井戸を掘り、もし、水が出たら嫁になりましょう」と言った。ある男が毎日休まず掘って、ついに水が出ると分かった時娘は急死し、その血が井戸に入った。そこを「血の池」と呼ぶようになった。

昔からこの地域は水不足に民が窮して争いが絶えなかった逸話にも関連しているのかもしれません。

なぜこんな伝説があるのか、それは血の池が、赤く見える時があるからです。

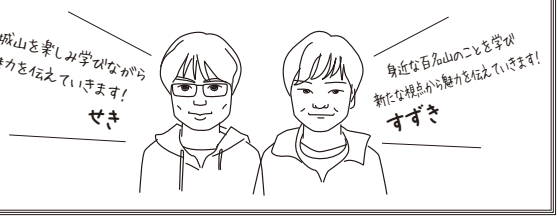
渇水期には出現せず雨水が溜まってくると現れる「ヤマヒゲナガケンミジンコ」が正体とも言われています。標高の高いところでは太陽光線の紫外線対策で、身を守るために殻にメラニン色素を作って赤くなるのです。

また、水底の砂が赤みを帯びていることも名前の由来になったのかもしれません。

これが「血の池」の正体！？

AKAGIFT編集後記

令和元年10月より、前橋市観光地域おこし協力隊として
赤城自然塾での観光地域づくり活動に取り組んでいます！



赤城山ツーリズム地元推進協議会
NPO法人 赤城自然塾
観光庁登録 観光地域づくり法人(DMO)
〒371-0231 群馬県前橋市堀越町1115　前橋市大胡支所内
TEL 027-212-2611　FAX 027-212-2691
http://www.akagi-trip.com

information
AKAGIFT
×
ぐんまのクチコミナビ!
ぐんラボ!
AKAGIFTはクチコミサイト「ぐんラボ！」とコラボし、スポットの最新情報やクチコミをチェックできるようになりました！お出かけの際は各QRコードに、ぜひアクセスしてみてくださいね！

[表紙の写真] 2019年元旦の地蔵岳。赤城ブルーの空に、白銀の富士山を望む絶景が広がっていた。